



# JSBMR Newsletter No. 3

日本骨代謝学会 / The Japanese Society for Bone and Mineral Research

〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町 1-5-3 千里朝日阪急ビル 13 階 (財)日本学会事務センター大阪事務所内

TEL: 06-6873-2780 FAX: 06-6873-2750 E-mail: jsbmr@bcasj.or.jp http://edpex104.bcasj.or.jp/jsbmr/

## 第 22 回日本骨代謝学会学術集会 開催案内

会 期: 2004 年 8 月 4 日(水) ~ 8 月 7 日(土)

会 場: 大阪国際会議場

会 長: 香川大学医学部整形外科 教授 乗松 尋道

参加費: 12,000 円 (学生 5,000 円 … 学生証の提示が必要です)

詳細はプログラム抄録集をご覧ください。多数の参加をお待ちしております。

## ~~~~~ 2004 年度の各賞が決定しました ~~~~~

5 月に行われた選考委員会・理事会において、2004 年度の各賞が下記のように決定いたしました。

### 【学会賞】

杉岡 洋一 (九州労災病院)

### 【学術賞】

- < 基礎系 > 江尻 貞一 (新潟大学) 「骨吸収及び骨組織動態に関する形態学的・形態計測学的研究」
- < 外科系 > 小池 達也 (大阪市立大学) 「Cell biology から Hip protector へ」
- < 内科系 > 山本 威久 (箕面市立病院) 「臨床医からみた骨疾患の病態へのアプローチ」

### 【奨励賞】

- < 基礎形態系 > 釘宮 典孝 (東京大学医学部ティッシュエンジニアリング部)  
「BMP2 と BMP6 の組合せは生理作用として骨形成に重要である  
- BMP2; BMP6 ダブルノックアウトマウスの解析 -」
- < 基礎機能系 > 山本 陽子 (東京大学分子細胞生物学研究所核内情報研究分野)  
「骨芽細胞特異的 VDR 遺伝子欠損マウスの作製とその骨量増加機構解析」
- < 内科臨床系 > 原田 大輔 (岡山大学大学院医歯学総合研究科小児医科学)  
「FGF receptor3 遺伝子変異による骨成長障害のメカニズムの解明」
- < 外科・歯科臨床系 > 亀倉 暁 (東京大学医学部整形外科学教室)  
「Runx2 による関節軟骨細胞の病的肥大化が変形性関節症(OA)発症の引き金となる  
- OA 誘発モデルを用いた Runx2 ヘテロ欠損マウスの解析 -」
- < 疫学系 > (該当者なし)

8 月 6 日(金)13 時 15 分より、総会に引き続いて授賞式、学術賞受賞講演が執り行われる予定です。

# 2003～2004年度 日本骨代謝学会 会務報告

(2003年11月～2004年5月末)

## 1) 理事会

### 2003年度 第4回理事会議事録

日時: 2004年3月5日(金) 16:00～18:00

会場: 千里クラブ(千里LCビル20階)2002号室

出席者:

清野佳紀(理事長)、川島博行(副理事長)、滝川正春、野田政樹、吉川秀樹、米田俊之、太田博明、大園恵一(理事)、乗松尋道、山口 朗(監事)

同席者:

鈴木不二男(編集委員長)、高岡邦夫(あり方委員長)、中村利孝(QOL委員長)、松本俊夫(国際渉外委員長)、白木正孝(臨床プログラム推進委員長)、田中弘之(書記)、山元理恵(事務局)

欠席者:

福永仁夫、遠藤直人、西沢良記、豊島良太(理事)、名和田新(ステロイド委員長)

議 事:

2003年度第3回理事会議事録の承認(清野理事長)

2003年10月31日に行われた2003年度第3回理事会の議事録案が提出され、一部(国際渉外委員会の報告内容)を修正した後に承認された。

< 報告事項 >

### 1. 庶務報告(滝川理事)

滝川理事より、2004年1月末時点の役員数、会員数、および会費納入率が報告された。

### 2. 会計報告(吉川理事)

吉川理事より、2004年1月末時点の会計中間報告についての説明があり、ほぼ順調に予算が執行されていることが確認された。

### 3. 各種委員会報告

#### 1) 第22回プログラム委員会(乗松次期会長)

乗松次期会長より、8月に行われる第22回学会の具体的な企画および日程表が示された。会期中の会議としては、4日の13～15時に理事会を予定しているが、その他の委員会でも、開催希望があれば、事務局に申し込み、日時を調整することになった。

また、理事長より、例年どおりアジアからの発表者に Travel Awardを出すアジアセッションを開催してほしいとの要請があり、緊急に対応することになった。

#### 2) 学会誌編集委員会(鈴木編集委員長)

鈴木編集委員長より、JBMMの発行状況および投稿状況について報告があった。2003年の投稿受付件数は124編となり、2004年の投稿はさらに増える傾向にあること等が説明された。

また、ある企業より、掲載予定論文を和訳して、1万部を製品

情報として配布したいという申し入れがあった。本件は初めての申し出であるため、学会と出版社に対して支払うロイヤリティーの額を設定した後、上記依頼を受け入れることが確認された。その他、JBMMの広告申込状況についても報告があった。

#### 3) 骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会(中村委員長)

中村委員長より、1月25日に東京で開催された委員会の報告があった。JOQOLを幅広く使用してもらうためにも、来年度中にはショートフォームを発表できるよう、作業を進める予定であること等が説明された。

#### 4) 広報委員会(事務局)

前回の理事会後(11月以降)に、事務局に申し入れのあったホームページのリンク依頼(3件)について、報告があった。

#### 5) 臨床プログラム推進委員会(白木委員長)

白木委員長より、「骨粗鬆症データベース」の構築について、具体的な案が示された。検討メンバー(日本骨代謝学会、日本骨粗鬆症学会、A-TOP研究会などに所属する会員)を中心に活動を行う予定であり、骨代謝学会からも将来的にいくらかの資金を支出することになった。

それに伴い、学会内に倫理委員会を立ち上げる必要性が確認され、川島副理事長を委員長とする委員会の設立を進めることになった(外部からも2名程度をメンバーに加える)。

#### 6) 国際渉外委員会(松本委員長)

松本委員長より、理事会前に開催された委員会の報告とともに、以下の3点が提案され、承認された。

##### 国際交流基金について

IBMS-JSBMR 2003の還元経費として入金された1,000万円は、国際交流基金として今後の国際的な活動(海外との合同学会の際の Travel Grant など)に使うことになった。

##### ANZBMS との合同学会について

ANZBMSの会長から提案を受けていた合同学会を、2005年の第23回骨代謝学会(大阪)の会期後に、続けて行う方向で調整することになった。また、次年度はオーストラリア(ケアンズ辺り)で開催することを申し入れ、その場合は開催費を ANZBMS 側に負担してもらう代わりに、発表者の渡航費用の一部を の基金から支出することになった。

##### ASBMR 会期中の地域別会合について

ASBMRより、学会期間中に各地域で同じ国の出席者が集まる会合を設けてはどうか、という提案がなされる予定であるが、当学会としては特に開催を希望しないという返答をすることが確認された。

#### 4. 学会誌掲載論文の転載許可について

転載許諾の依頼があった3件について、条件を満たしていたことから、転載を許可したことが報告された。

## 5. 第23回骨代謝学会準備状況について

第23回学会のプログラム委員を選定し、次回の理事会(5月14日)の時に、第1回目の委員会を開催する必要のあることが確認された。

## 6. 第24回骨代謝学会準備状況について(川島副理事長)

川島副理事長より、第24回学会を2006年7月6日(木)~8日(土)に、都市センター(東京)で開催する予定であることが報告された。

## 7. ビスフォスフォネートフォーラムについて(清野理事長)

「ビスフォスフォネート Update」の規約案が提出され、骨代謝学会開催期間中に合わせて開催されることが確認された。

## &lt;審議事項&gt;

## 1. 学術賞・奨励賞選考委員の選出について(乗松次期会長)

乗松次期会長より、選考委員会の構成メンバーの原案が提出され、一部を変更して承認された。

[委員長] 乗松 尋道 (第22回会長)

[委員]<内科系> 福永 仁夫  
白木 正孝  
西沢 良記 (第23回会長)

<外科系> 大園 恵一  
遠藤 直人

太田 博明  
高岡 邦夫  
吉川 秀樹  
<基礎系> 山口 朗 (第21回会長)  
野田 政樹  
滝川 正春  
米田 俊之

5月14日(金)の選考委員会において受賞候補者を選定し、その後の理事会で承認する予定であることが確認された(選考委員会のメンバーに入っていない理事にも、選考用資料を配布する)。

## 2. 新評議員の推薦について(清野理事長)

下記の3名の評議員推薦について説明があり、いずれも承認された。

・梶 博史(神戸大学・応用分子医学・内分泌神経学分野)  
推薦者:千原和夫、杉本利嗣

・田原 英樹(大阪市立大学・代謝内分泌病態内科学)  
推薦者:西沢良記、稲葉雅章

・鈴木 康夫(東海大学・血液腫瘍リウマチ内科)  
推薦者:杉本利嗣、金谷正則

## 3. その他

次年度の理事会開催予定日が下記のように決定された。

第1回理事会	2004年5月14日(金)
第2回理事会	2004年8月4日(水)
第3回理事会	2004年11月26日(金)
第4回理事会	2005年3月4日(金)

## 2003年度 第4回理事会議事録

日時:2004年5月14日(金) 18:00~19:00

会場:千里クラブ(千里LCビル20階)2002号室

出席者:

清野佳紀(理事長)、川島博行(副理事長)、滝川正春、野田政樹、福永仁夫、吉川秀樹、米田俊之、太田博明、遠藤直人、西沢良記、大園恵一(理事)、乗松尋道、山口朗(監事)

同席者:

鈴木不二男(編集委員長)、高岡邦夫(あり方委員長)、中村利孝(QOL委員長)、白木正孝(臨床プログラム委員長)、田中弘之(書記)、山元理恵(事務局)

欠席者:

豊島良太(理事)、名和田新(ステロイド委員長)、松本俊夫(国際渉外委員長)

議事:

2003年度第4回理事会議事録の承認(清野理事長)

2004年3月5日に行われた2003年度第4回理事会の議事録案が提出され、承認された。

## &lt;報告事項&gt;

## 1. 庶務報告(滝川理事)

滝川理事より、2004年3月末時点の役員数、会員数、および会費納入率が報告された。1年前の同時期と比較すると、正会員が100名近く減少しているため、退会者の所属機関、専門領域、在籍期間、年齢層などについて調査した結果が報告された。ただし、4月後半には演題締切の関係で、正会員だけでも36名の入会があったため、会員数挽回に若干の期待がもてること、また、あり方委員会において会員数増加に向けた対策を検討する予定であることが報告された。

## 2. 各種委員会報告

## 1)学会誌編集委員会(鈴木編集委員長)

鈴木編集委員長より、JBMMの発行状況および投稿状況について報告があった。また、平成16年度の科学研究費補助金(研究成果公開促進費)として、370万円(平成15年度は300万円)の交付が内定されたことが報告された。

なお、前回の理事会においても審議された製薬会社からの和訳刷りの大量申し込みについては、理事会に先立って開催された編集委員会において、1万部の発行に対して一定の条件で受けることを決定した旨が説明された。

その他、オンライン査読の導入についても検討を進めており、8月の学会期間中の編集委員会においてデモを行う予定であることが発表された。

## 2)骨粗鬆症患者QOL評価検討委員会(中村委員長)

中村委員長より、4月4日に東京において開催された委員会の報告があった。議論の結果、様々な問題点をクリアするためには、2000年度版JOQOLのvalidityを確立させるより他に方法がないという結論に達し、来月末に開催される委員会から、具体的な作業にとりかかる予定であること等が説明された。

3)ステロイド性骨粗鬆症診断基準検討委員会(西沢担当理事)  
8月の学会期間中に、ガイドラインを発表する予定であることが報告された。

4)広報委員会(遠藤理事)  
学会事務局に寄せられる関連学会からのホームページのリンク依頼等に対しては、広報委員長(必要に応じて理事長)の許可を得ながら、逐次、対応していること等が報告された。

また、第22回学術集会の抄録集に同封して、Newsletterを送付する予定であるため、掲載記事がある場合は、事務局まで連絡してほしい旨が要請された。

5)臨床プログラム推進委員会(白木委員長)  
臨床系の演題が減少していることから、増加に向けた方策を西沢次期会長とともに検討する予定であることが報告された。また、4月18日(土)に行われた第2回JOB委員会の報告があった。

3. 第22回骨代謝学会準備状況について(乗松第22回会長)  
4月22日(木)に演題を締め切った結果、280題(うち180題が基礎系)の演題が集まり、そのうちの130題をオーラルに、180題をポスターにする予定であること等が報告された。

4. 第23回骨代謝学会準備状況について(西沢第23回会長)  
2005年7月21日(木)~23日(土)に開催予定の第23回学術集会の1回目のプログラム委員会が、本日の理事会に先立って開催されたことが報告された。テーマは「続発性骨粗鬆症」とし、関節リウマチを主題の一つに取り上げ、特別講演にも招聘すると共に、リウマチ学会との連携も視野に入れて、検討を進めることになった。また、臨床と基礎のtranslationalなシンポジウムも検討することとし、臨床研究の参加をさらに促すためにも、臨床プログラム推進委員会の白木委員長にプログラム委員会のメンバーに加わっていただくことが要請され、承認された。

5. 第24回骨代謝学会準備状況について(川島第24回会長)  
第24回学術集会は、2006年7月6日(木)~8日(土)に、東京の都市センターホールにおいて開催予定であることが報告された。

6. 日本学術会議の制度変更について  
2004年10月1日より、日本学術会議の制度が変更されることに伴い、関係資料が配布された(現在の第19期の活動は2004年9月30日までとなり、学術研究団体として登録されていた当学会も、それ以降は「広報協力学術団体」に変更となる。また、会員の推薦方法も大幅に変更される)。

7. 学会誌掲載論文の転載許可について  
転載許諾の依頼があった1件について、条件を満たしていたことから、転載を許可したことが報告された。

#### < 審議事項 >

1. 2003年度収支決算について(吉川理事)  
吉川理事より、収支決算報告(案)に基づいて決算内容が説明された。第21回学術集会の和文抄録集の取り扱いが、予算

段階から変更になったことに伴う誤差はあるものの、ほぼ予算どおりに執行されたことが報告され、承認された。

また、IBMS-JSBMR 2003の経費として還元された約1,000万円を「国際交流基金」として新設したが、既存の基金である「振興基金」と「学会運営積立金」についても過去の経緯を調査し、特別会計の整理・統合が可能であるかどうかも含めて、今回の理事会において検討することになった。

2. 2003年度会計監査について(乗松監事)  
乗松監事より、5月10日(月)に、山口監事とともに事務局内において2003年度の会計監査を行ない、帳簿および伝票類を調査した結果、問題なく処理が行われていることを確認した旨が報告された。

3. 2004年度予算案について(吉川理事)  
吉川理事より、2004年度予算案に関する説明がなされ、原案どおり承認された。

4. 学術賞・奨励賞の選考について(乗松選考委員長)  
乗松委員長より、理事会に先立って開催された学術賞・奨励賞選考委員会における審議結果が報告され、いずれも承認された。ただし、この度は、奨励賞応募者の分類を申請者本人の申告に基づいて行ったが、本来は応募者が所属する教室(講座)によって分類すべきであるため、次年度以降はそのように統一することが確認された。しかし、近年は所属名を見ただけでは領域が分かりにくくなっていることも確かであるため、分類方法に関する今後の方針については、あり方委員会において検討することになった。

#### 【学術賞】

< 基礎系 >	江尻 貞一	(新潟大学)
< 外科系 >	小池 達也	(大阪市立大学)
< 内科系 >	山本 威久	(箕面市立病院)

#### 【奨励賞】

< 基礎形態系 >	釘宮 典孝	(東京大学)
< 基礎機能系 >	山本 陽子	(東京大学)
< 内科臨床系 >	原田 大輔	(岡山大学)
< 外科・歯科臨床系 >	亀倉 暁	(東京大学)
< 疫学系 >	- 該当者なし -	

5. 学会賞の選考について  
各理事に推薦を募った結果、3名の候補者があり、その中から杉岡洋一先生(九州大学名誉教授)を今年度の学会賞受賞者に選出した。

6. 名誉会員の推薦について  
佐藤光三先生が名誉会員に推薦されたが、理事を経験されていないことから、これまでの基準(理事長・理事もしくは会長経験者)を満たしておられないとの結論に達し、今回は承認されなかった。

7. JBMMの年間購読料について(鈴木編集委員長)  
鈴木編集委員長より、JBMMのページ数増加に伴い、出版社

から購読料(年間契約料)の値上げについて依頼のあったことが説明された。

また、投稿数の増加に伴い、事務作業量が大幅に増えていることから、編集事務局(日本学会事務センター)からも編集事務委託費の値上げ依頼があり、承認された。

2年連続で科学研究費補助金を獲得できたため、値上げ依頼に対しても対応が可能であるが、補助金が得られない場合のことも考え、今後、著者に対して超過ページ代を課すこと等も検討することになった。

## 2) 各委員会報告

### < 学会誌編集委員会 >

日 時: 2004年3月5日(金) 14:30~15:30

場 所: 千里クラブ(千里LCビル20階) 2003号

出席者: 編集委員長: 鈴木不二男; 理事長: 清野佳紀

Associate editors: 川島博行、野田政樹、細井孝之

欠席者: Associate editors: 久米川正好、中村利孝、福永仁夫

名誉編集委員: 藤田拓男

陪席者: 編集秘書: 五郎大由似子(日本学会事務センター)

鈴木委員長より資料に基づき説明があり、以下の事項を承認した。

### I. 第10回編集委員会議事録の確認

### II. 報告事項

#### 1. 発行準備状況

a) 予定通り22(1)を1月に発行した。22(2)は3月上旬に会員宛に発送する予定である。22(3)は5月に、22(4)は7月に発行する予定、いずれも掲載論文が決定している。22(5)は8編が掲載可となっている。掲載ページ数は56ページ/号の契約を上回っている(78-111ページ)。

#### b) Reviewの掲載状況

22(2): Review: Mika Yamauchi, et al (神戸大、02年度学術賞受賞論文1)

22(3): Review: Annie WC Kung, et al (University of Hong Kong, 投稿総説論文)

Aizo Matsushiro, et al (大阪大学名誉教授、招待論文)

学術賞および奨励賞受賞論文は、到着順に22(4)以降に掲載する予定である。特に2002年度受賞者で未執筆の研究者にすみやかにご執筆いただくよう依頼をする。

#### c) 論文投稿および査読状況

2004年2月27日現在で26編の投稿があり、昨年と同時期よりさらに増えている。現在、査読中の論文は76編である。

国内からの投稿率は2002年度53.9%、2003年度51.6%であり、海外からの投稿が増加する傾向にある。2003年度総投稿数は124編で、その分野の内訳は外科系23編、外科/内科系7編、内科系43編、内科/基礎系2編、基礎系49編となっている。

2002年度の総投稿数、72編のうちrejectが24編(reject率は約33%)となっている。03年は124編のうち、36編がreject(reject率は約29%)となっているが、査読中論文があるのでreject率がさらに上昇する可能性がある。

各エディターの査読論文数は年間14編~23編であり、分野により多少ばらつきがある。

2003年のレフェリーの内訳一覧によれば、同一人物に7回および6回依頼したレフェリーが各1名づつ、4回依頼したレフェリーは3名となっている。レフェリーへの査読依頼については、論文内容によって異なったエディターからある特定の人物に集中して依頼するケースがあり、これが査読遅滞の一つの原因にもなっているため、事前に了承を得ることが望ましい。

### 2. JBMMへの英文広告の掲載について

2004年度のJBMM誌への英文広告掲載の申し込み状況を学会事務局より報告された。

### 3. 電子ジャーナル閲覧方法について

シュプリングァー社より送られてきた「電子ジャーナル版閲覧方法のご案内」をVol.22, No.3に挟み込んで会員へ配布する。

## III. 協議事項

### 1. JBMM誌オンライン査読について

海外からの投稿数が増加していることに鑑み、著者への利便性、通信費の増加を防ぐこと、さらには査読の迅速化を図るためにオンライン査読を導入する件について協議した。

日本の学術誌にはオンライン査読の実績があまりないが、海外または日本で提供しているパッケージをいくつか候補に上げ、初期費用、年間費用および仕様について具体的に調査、検討することにした。

### 2. JBMM誌掲載予定論文の和訳について

今般、ある製薬会社より、JBMMに掲載予定の論文を和訳して製品情報として大量に配布したいという申し入れがあった。JBMMに掲載後であれば、当該論文を和訳して配布することは、とくに問題はないが、学会および出版社が製薬会社に対して何らかのローヤリティーを請求するべきである。ただし、その金額については、シュプリングァー社と協議した上、原案を理事会で審議することとした。

日 時: 2004年5月14日(金) 14:30~15:30

場 所: 千里クラブ(千里LCビル20階) 2004号

出席者: 編集委員長: 鈴木不二男;

Associate editors: 川島博行、中村利孝、野田政樹、福永仁夫

欠席者: 理事長: 清野佳紀、Associate editors: 久米川正好、

細井孝之、名誉編集委員: 藤田拓男

陪席者: 編集秘書: 五郎大由似子(日本学会事務センター)

鈴木委員長より資料に基づき説明があり、以下の事項を承認した。

### I. 第11回編集委員会議事録の確認

### II. 報告事項

#### 1. 学術振興会の研究成果公開促進費

本年度も採択され、370万円受給する。(昨年度は300万円)

#### 2. 発行準備状況

a) 予定通り22(2)を3月、22(3)を5月に発行した。22(4)から22(6)まで予定どおり発行する予定である。掲載ページ数は56ページ/号の契約を大幅に上回っている。

b) Reviewの掲載状況

22 (3): Review: Annie WC Kung, et al (University of Hong Kong, 投稿総説論文)

Aizo Matsushiro, et al (大阪大学名誉教授、招待論文)

22 (4): Review: Masaaki Inaba: Secondary osteoporosis: thyrotoxicosis, rheumatoid arthritis, diabetes mellitus (大阪市立大、03年度学術賞受賞論文2)

22 (5): Mini Review : Akinori Hishiya and Ken Watanabe: Progeroid syndrome as a model for impaired bone formation in senile osteoporosis (国立長寿医療研究センター、02年度奨励賞受賞論文1)

22 (6): Mini Review: Shinjiro Takata, et al: Evolution of understanding of genetics of Paget's disease of bone and related diseases (徳島大学、投稿ミニ総説論文)

学術賞および奨励賞受賞論文は、到着順に 23 (4)以降に掲載する予定である。各賞受賞者の原稿到着が遅れがちであり、特に何ら事情説明もなく、執筆することに消極的である 2002 年度奨励賞受賞者が問題である。

#### c) 論文投稿状況

2004 年 5 月 10 日現在で 55 編の投稿を受け付けており、年間 150 編程度 (昨年は 124 編) に増える見込みである。なお現在、査読中の論文は 65 編である。

投稿数の増加に対しては、前回委員会の決定に従い (理事会でも承認済み)、却下論文を増やして掲載論文の質を高めるとともに、号数を増やすことなく、1 号当たりのページ数を増やすことにより対処してきた。しかし、採択論文を遅滞させることなく、掲載するために No. 3 は 124 ページ、No. 4 は 116 ページというように、契約ページの 2 倍に達しつつある。それに伴い、Springer 社より増ページに対する購読料値上げの要請があったので、協議したい。

また、事務処理量の増加に対して学会センターからも事務費増額の要請がありこれについても協議する。

#### d) 査読状況

エディターの採否判定処理が遅れるのを防ぐために、エディターにレフェリーを依頼しないよう、とくに細井孝之先生について、お願いしたい。

#### 3. JBMM への英文広告の掲載について

2004 年度の JBMM 誌への英文広告掲載の申し込みは、理事長の尽力もあり前回より増加したことが報告された。

#### 4. その他

JBMM 掲載予定論文を和訳した別冊 10,000 部を製品情報として関係方面に配布したいとの申し入れへの対処について、当学会理事会の意向を受けて、Springer 社が万有製薬と直接交渉した結果、学会および Springer 社に対してそれぞれのロイヤリティを支払われることで合意された。実際は、当該論文掲載号が発行された後で実施される見込みである。金額が理事会で承認されれば、その旨、Springer 社に回答する予定である。

ただし、本件実施の条件は以下の通りである。

- 1) 著者の許可を得ること。
- 2) 和訳論文につき、著者の確認を得ること。
- 3) 和訳論文には、出典とその日本語版であることを明示すること。
- 4) 和訳論文別冊の配布は学会指定の時期以降とすること。

5) 和訳論文別冊を学会および出版社に提出すること。

6) ロイヤリティについて取り決めること。

#### III. 協議事項

##### 1. Springer 社に支払う JBMM 購読料および学会センターに支払う事務費の改定について

###### 1) Springer 社に対して:

Springer 社、米澤編集部長より昨今、JBMM のページ数が大幅に増加している状況に鑑み、値上げして頂きたいという要請があった。これに対して本学会の経理状況を勘案した上で、理事会に上程してはいかかとの提案が編集委員長よりあった。その後、理事会の結論に基づき、Springer 社と契約改定交渉を行うという手筈を考えている。超過分はできるだけ、採択された研究成果促進費の範囲内に納めたいと考えている。ただし、現在の勢いでは、年間、600 ページを超えそうな情勢であるので、今後の状況によって契約金額は予定より増額となるかもしれない (資料: JBMM 発行ページ数の推移 (02-04) を示す表)。

###### 2) 学会センターに対して:

投稿数の増加に伴い、事務量が当初より 3 倍増となっている。学会センターとしては、派遣社員により対応しているが、現在の事務費では対処しきれなくなっている。郵送料の増加に対してはすでに実費扱いになっているが、これとは別個に費用を計上しておく必要がある (JBMM 投稿増加における編集事務費の単価推移に関する図表)。本件についても Springer 社への件と併せて研究成果促進費の範囲内に納めたいと考えている。

上記二件の提案が、いずれも認められたので、理事会に上程したところ、理事会においても、そのまま承認された。

##### 2. JBMM 誌オンライン投稿および査読について

海外からの投稿数が増加していることに鑑み、著者への利便性、通信費の増加を防ぐこと、さらには査読の迅速化を図るためにオンライン査読を導入する件について引き続き協議した。

Springer 社から配布された Manuscript Central (Scholar One, Inc.) のレジメに従い、事務局が概要の説明を行った。このパッケージを利用するにあたり、初期費用がかかること、使用言語はすべて英語となること、エディターの責任がこれまでより以上に重大となるという特長があげられた。

協議の結果、JBMM は現在、国外からの投稿が半数程度に達しているため、オンライン投稿および査読に踏み切る時期にきているとの結論に達し、2006 年 1 月からの運用を目指して、採用するパッケージを具体的に選択することとした。まずは Manuscript Central のデモを行うこととし、次回の編集委員会 (8 月の日本骨代謝学会大会前日) に Springer 社、米澤編集部長に仔細について説明してもらい、役割等を定めることとする。

##### 3. 今後の編集方針

JBMM は日本からの情報発信を重視することに変わりはないことを再確認するとともに、今後の論文採択に際しては、これまで以上に、reject を増やして論文の質を高めること、冗長な文章はできるだけ短縮化を図ることとし、ページ数の増加を可能な限り防ぐようにすることを了承した。

なお、各エディターの Reject 率の目安は 30-40%とすることが委員長から提案され、了承された。

< 第 23 回日本骨代謝学会プログラム委員会 >

日 時: 2004 年 5 月 14 日(金) 16:00 ~ 17:00  
 場 所: 千里クラブ(千里 LC ビル 20 階) 2003 号室  
 出席者: 西沢 良記(第 23 回会長)、乗松 尋道(第 22 回会長)、川島 博行(第 24 回会長)、大園 恵一、福永 仁夫、吉川 秀樹、太田 博明、滝川 正春、野田 政樹、稲葉 雅章、山元 理恵(事務局)

会期は 2005 年 7 月 21 日(木) ~ 23 日(土)、会場は大阪国際会議場とする。テーマは「続発性骨粗鬆症」とし、関節リウマチを主題の一つに取り上げ、特別講演にも演者を招聘する。また、リウマチ学会との合同シンポジウムなども企画する。

臨床研究分野からの参加をさらに促すために、臨床と基礎の translational なシンポジウムの開催も検討する(臨床プログラム推進委員会の意見も取り入れながら進める)。

< 骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会 >

日 時: 2004 年 1 月 25 日(日) 15:00 ~ 17:00  
 場 所: 東京国際フォーラム 5 階 G506 号室  
 出席者: 中村利孝(委員長)、鈴木隆雄(副委員長)、揖場和子、太田博明、五來逸雄、白木正孝、白田久美子、藤原佐枝子、楊 鴻生、遠藤直人(担当理事)、山元理恵(事務局)  
 欠席者: 藤縄 理

1. 前回議事要旨の確認

2003 年 10 月 11 日(土)に開催された前回の委員会の議事要旨が確認され、原案どおり承認された。

2. 活動方針

- 1) 1999 年度版と 2000 年度版との比較について  
 高橋前委員長に確認したところ、2000 年度版 JOQOL を用いたデータ収集は行っていなかったことが明らかとなった。よって、1999 年度版の素データとの比較は不可能となったが、前回の委員会において焦点となった 2 点( [質問 8] のトイレ使用に関する質問形式を変更した、 回答の脱落が多いため[質問 38] を削除した)については、2000 年度版を作成した時点で問題をクリアできていたことが確認できた。ただし、残る 1 点( . 娯楽・社会的活動)の質問領域の回数を問う期間を「最近 3 ヶ月間」から「この 1 年位」に拡大した)については、引き続き保留扱いとすることになった。
- 2) 骨粗鬆症と更年期障害との交絡性について  
 現在、10 施設において、同時に 3 種類(SF36、2000 年度版 JOQOL、日産婦評価表)の調査を開始しつつある状況であるため、今年の 8 月に開催される第 22 回骨代謝学会において、結果を発表することは難しいことが報告された。
- 3) 脊柱変性、膝 OA、脊椎骨折などの交絡性について  
 報告の結果、以下の 3 点が明らかとなった。  
 筋骨格系の疾患は、SF36 および JOQOL ではすべて影響を受け、点数が低下する。また、変形性脊椎症は、骨棘の存在と骨硬化を伴う椎間板狭窄の存在で診断すると、椎

間板狭窄の存在では JOQOL を悪化させる。  
 骨粗鬆症に特異的な QOL の変化は、Qualeffo 41 を土台とした JOQOL でも評価できない可能性がある。  
 膝 OA では説明量が少ないため、その他の全身のおよび社会的・精神的な要因を含めた方が影響すると推測できる。

- 4) 年齢による減衰の有無の確認について  
 年齢による減衰は、1999 年度版において確認済であるため、2000 年度版においても認められるはずである。しかし、本来、JOQOL は病院に来られた人を対象とした 370 例ほどのデータから得られたもので、いわゆる健常者での評価は行われていない。したがって、JOQOL については、健常者の年齢相応の QOL 基準値との比較は行わないことにした。

3. JOQOL ショートフォームの確認

2001 年に委員会に提出された「骨粗鬆症患者 QOL 評価質問表(1999 年度版)の妥当性検討と簡略版の作成」という資料をもとに、ショートフォームの妥当性について検討を行った。その結果、JOQOL 40 問版(1999 年度版)とミニ 15 問版との相関値がかなり高いこと、ミニ 15 問版を使用するためには、新たに Validity をとる必要があることが確認された。ただし、資料が作成された当時の詳細が不明なため、遠藤担当理事より岩谷前副委員長に、ショートフォームのデータの有無や、その論文化が進んでいるかどうか等を確認してもらうことになった。

また、各委員が保管している JOQOL データの中から、18 問版に該当する箇所を抽出してもらい、分析を進めることにした。

4. 今後の方針について

- 1) JOQOL の変形性脊椎症、変形性膝関節症、更年期症状などとの交絡性については、さらに検討を進める。(この場合、1999 年度版、2000 年度版のどちらを用いてもよい。)
- 2) 今後の本委員会の目標は、1999 年度版をもとにしたショートフォームの妥当性を検討し、この利用促進をはかることとした。
- 3) ショートフォーム 18、15 などについての妥当性を、交絡要因を含めて検討する。

日 時: 2004 年 4 月 4 日(日) 15:00 ~ 17:00  
 場 所: 東京国際フォーラム 4 階 G401 号室  
 出席者: 中村利孝(委員長)、鈴木隆雄(副委員長)、揖場和子、太田博明、五來逸雄、白木正孝、藤縄 理、藤原佐枝子、楊 鴻生、遠藤直人(担当理事)、山元理恵(事務局)  
 欠席者: 白田久美子

1. 前回議事要旨の確認

2004 年 1 月 25 日(日)に開催された前回の委員会議事要旨が確認され、一部を修正して承認された。

2. ショートフォーム移行への経緯説明

遠藤担当理事より、これまでの経緯を岩谷前副委員長に問い合わせた結果が報告された。過去に作成されたショートフォーム(15 問版と 18 問版)は、いずれも 40 問版(1999 年度版)から抽出して解析したものであり、ショートフォーム単独での validity はとっていないこと、また、その論文化については、現在、高橋前委員長と話を進めているところである旨の返答を得た。

### 3. ショートフォーム移行への問題点と交絡性

今後、JOQOL の普及のために、ショーフォームの確立を目指すことでは意見が一致したが、以下のような問題点があるため、1 時間以上の議論の末、今のままではショートフォームへの移行作業には進めないことが確認された。

過去に作成されたショートフォームは 1999 年度版を基に作成されたものであるため、2000 年度版の validity が確立されていない以上、ショートフォームに 2000 年度版への変更点を反映させることには問題が残る。

validity が確立されていない 2000 年度版を無視して、1999 年度版を基にしたショートフォームの完成を進めることも考えられるが、すでにスタートしている更年期障害との交絡性を調べる調査に支障を来すことになる。

JOQOL2000 年度版は、すでに 2000 年発行の骨代謝学会雑誌に掲載され、公表されてしまっているため、それを利用している施設があるはずである。よって、今になって 1999 年度版を基にしたショートフォームを発表することには、学会としての責任を問われかねない。

### 4. 今後の方針について

議論の結果、様々な問題点をクリアするには、新たに 2000 年度版の validity を確立させるより他に方法がないという結論に達した。よって今後は、各施設でどの程度のデータを採集できそうであるかを確認すると共に、プロトコルの確定を進めることになった。

それに伴い、1999 年度版で validity をとる際に作業を行った東北大学の大学院生(当時)の現在の所属先を調べて、前回の方法について問い合わせること、また、具体的な作業にかかる人件費や印刷費、郵送費などを見積り、必要であれば(理事会の承認を得て)A-TOP 研究会の援助を受ける等の可能性も検討することになった。

#### < 国際渉外委員会 >

日 時: 2004 年 3 月 5 日(金) 15:00 ~ 16:00  
場 所: 千里クラブ(千里 LC ビル 20 階) 2004 号室  
出席者: 松本俊夫(委員長)、大園恵一、野田政樹、  
福本 誠二、山口 朗、山元 理恵(事務局)  
欠席者: 米田 俊之

#### 1. ANZBMS との合同学会の開催について

ANZBMS の会長から提案を受けていた合同学会を、2005 年に大阪国際会議場で行われる第 23 回骨代謝学会の会期後に、続けて行う方向で調整できるよう、理事会に承認を求めることになった。また、次年度はオーストラリア(ケアンズ辺り)で開催することを ANZBMS 側に申し入れ、その場合は開催費を先方に負担してもらい代わりに、発表者の渡航費の一部を「国際交流基金」(IBMS-JSBMR 2003 の経費として還元された 1,000 万円)から支出することを、理事会に提案することになった。

#### 2. ASBMR 期間中の地域別会合について

ASBMR より、学会期間中に各地域で同じ国の出席者が集まる会合を設けてはどうか、という提案がなされる予定であるが、当学会としては特に開催を希望しない方針であることを、理事会で確認することになった。

#### 今後の学会予定

##### 第 23 回日本骨代謝学会

会 期: 2005 年 7 月 21 日(木) ~ 23 日(土)  
会 場: 大阪国際会議場  
会 長: 西沢 良記(大阪市立大学)

##### 第 24 回日本骨代謝学会

会 期: 2006 年 7 月 6 日(木) ~ 8 日(土)  
会 場: 日本都市センターホテル  
会 長: 川島 博行(新潟大学)

#### お 知 ら せ

2003 年度(2004 年発表) Impact factor が  
発表されました。

Journal of Bone and Mineral Metabolism

1.553

2002 年度 1.283 より 0.27 UP しました!